

## 一億総活躍社会に関する意見交換会提出資料

平成 27 年 11 月 18 日

NPO 法人わははネット 理事長 中橋恵美子

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事  
一般社団法人全国子育てタクシー協会理事

## 1 「産んでよかった!」「産まれて良かった!」と思える社会を作るために。

○ 「子育てひろばを運営する中で見えてきた」必要な支援“

『子育てをどうしていいかわからない』『子育てが不安・楽しくない』



『だったら子どもを保育所に預けて仕事しよう』(逃避・なんとなく仕事=長続きしない)



『子育てをどうしていいかわからない』『子育てが不安・楽しくない』



- ・ 妊娠期～乳児期に親として学びの場や交流の場に積極的に出られる仕組みづくり
- ・ 働きたい!社会に参画したい!というポジティブな思いを育てる。
- ・ 地域全体で子育て家庭（親も子どもも）を温かく見守り、サポートする体制づくり
- ・ 父親や家族と一緒に子育てを支えあえる雰囲気づくり
- ・ 職場が子育て中の女性を一つの個性特性と捉え長期に渡り雇用したいと思える環境（メンターの仕組み・WLB推進企業への優遇等）



子どもを産み育てながら“仕事”も”子育て“も（介護等含め）”家庭生活（夫婦の関係性構築含め）もポジティブに捉えられる



そういった人たちを増やし、またロールモデルとして“見える化”していくことで次の世代の人たちが子どもを産み、生き生きと働き、充実した生活を送れるのではないだろうか

## わははネットの取り組み事例

## ◆ 子育て支援拠点（子育てひろば）内で「利用者支援事業」を実施

子育てコーディネーターによる子育ての相談のみならず、仕事の問題、夫婦の問題、将来にわたる家族や働き方の在り方等についても一緒に話を聞き、寄り添うことで”親としての力“や”コミュニケーション能力“を養っている。

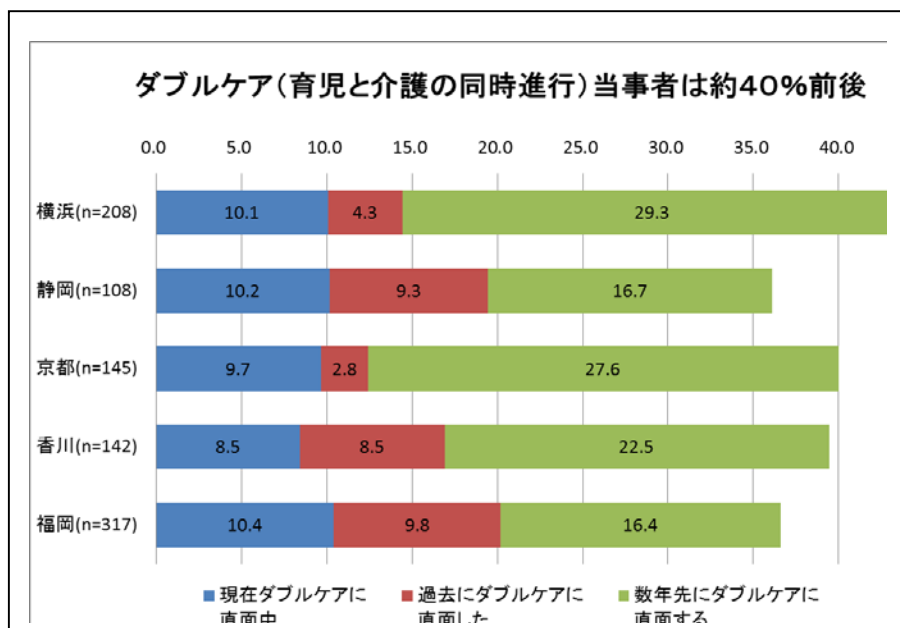
## ◆ メンター養成

香川県労働政策課と共にWLB推進に取り組むとともに、県内中小企業の女性メンター養成研修等を実施。企業の垣根を超えた女性メンターのネットワークを構築した。

<今後の課題>ダブルケアに直面する家族が増加している。子育てコーディネーターに介護等の知識及び様々な関連機関との連携をとれる体制づくりが必要

### 参考資料

■晩婚晩産化によりダブルケア（子育てと介護の同時進行）の当事者は約40%前後



註:2012年12月から2013年1月に横浜・静岡・京都・香川・福岡で子育てメールマガジン登録者対象に実施した携帯調査(n=933)の結果。回答者の平均年齢は、横浜37.2歳、静岡35.2歳、京都34.7歳、香川37.1歳、福岡36.6歳。

出典:相馬直子・山下順子(2015)『東アジアにおける介護と育児のダブルケア負担に関するケアレジーム比較分析報告書』

参考:ダブルケア(介護と育児の同時進行)の研究 ホームページ <http://double-care.com/>